



～ 新しい年を迎えて ～

新年、明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるに当たり、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

来し方令和7年は、給食人材の確保難等を背景に給食受託業者が児童施設から撤退されたため4月から直営化し、成人の入所施設は引続き委託という変則的な体制となりました。直営・委託それぞれの給食スタッフが業務に精励し、入所されている皆様に365日・3食欠かさず温かな食事を提供する基本サービスが堅持できたのは、まず何よりでした。

さて、私、昨年6月に理事長に就任して以降、一人でも多くの職員と意思疎通を深めるよう努めると共に、適正な事業運営に向け微力ですが努力を重ねてきました。職員の皆さんも、福祉人としての期待に添えていただき、日々のサービス提供の中で大きな苦情等が発生することなく、事業収入も予算をやや上回る趨勢で推移しました。「夏祭り」、「紅葉祭」、「社会見学旅行」、「忘年会」などの主要行事に私も努めて参加しましたが、概ね盛会裏に開催することができました。職員の日々の努力、ご家族はじめ関係の皆様のご協力の賜と、心から感謝申し上げます。

新たな令和8年、より良い慈光園にするには何が求められるでしょうか。

一つ目は、国の喫緊の課題の一つとして7年度補正予算及び8年度臨時報酬改定により障害福祉分野の処遇改善が改めて措置される予定です。これに迅速に呼応し、本園職員の処遇改善を図り、人材の定着促進・士気高揚を通じた利用者（児）サービスの一層の向上に努めます。

二つ目は、人材不足対策、組織活性化等に資する外国人労働者受入に向けた具体的準備着手に関し、去る12月理事会で了承されました。親日的で仏教徒が多いスリランカ人雇用の秋頃の実現を目指します。

三つ目は、県有敷地に建つ築34年のあすなろ園舎に係る改築問題への適切な対応です。あすなろだけに留まらず、法人全体の中長期的な施設整備構想にも関わる重要課題です。12月理事会に諮り、ワーキングチームで叩き台をまず練り、8年度末までの成案を目指すこととしました。

これ以外にも、日々諸課題が絶えないものと思いますが、弛まぬ努力で対処いたす覚悟です。関係の全ての皆様の限りないご指導ご鞭撻を引き続きお願い申し上げ、午年の年頭の御挨拶といたします。

社会福祉法人長崎慈光園 理事長 諸岡俊幸

